2025年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル※申請書と同じタイトルを記載すること	採択コース
スリランカでの伝統的予防医療、地域医療を学ぶ	Bコース

学生情報	
氏名	石角　綾香
所属学部・研究科	医学部医学科
学年（出発時）	2年

渡航先情報	
渡航先	スリランカ
渡航先滞在期間	2026年3月16日～30日
訪問先機関等	Karapitiya Teaching Hospital District Ayurvedic Hospital
訪問先機関での身分	見学者

渡航概要と内容

平日はKarapitiya Teaching Hospitalにて、複数の診療科で見学を行った。

1～2日目：作業療法（手）見学
3～6日目：脳神経外科手術見学
7日目：アーユルヴェーダ（伝統医療）診療所見学
8～9日目：総合診療科見学

基本的に午前中に見学を行い、午後は引き続き見学するか帰宅するかを選択できる環境であった。医師や医療スタッフ、現地の学生に積極的に質問しながら学びを深め、帰宅後には見学内容や症例について調べて復習を行った。

渡航により達成できたこと

ホームステイを通じて現地の生活様式や食文化への理解を深めるとともに、病棟や手術室など実際の医療現場を直接観察し、臨床のリアルを体感することができた。また、現地の学生やホストファミリー、医療スタッフと積極的に交流する中で、異文化環境における関係構築力を高めることができた。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回のプログラムは見学中心であり、自ら質問しなければ知識を得ることができなかったため、積極的に疑問を言語化し質問する力が養われた。一方で、私の医学英語の知識不足により十分に内容を把握できない場面もあり、学習の重要性を強く実感した。
また、スリランカの国立病院では医療費が無料で提供されている一方、患者数が非常に多く、長時間の待機が必要であることや、カルテが手書きで患者自身が記録を保管する仕組みなど、日本の医療システムとの違いを実感した。こうした点から、医療制度や医療資源の違いが医療の質や効率に大きく影響することを学んだ。
作業療法では、患者の生活機能の回復を最優先に治療が行われていることを学んだ。また、外傷の多くが喧嘩などの予防可能な要因に起因していると聞き、医療だけでなく予防や社会的背景への介入の重要性を感じた。脳神経外科では交通事故やココナッツの落下による外傷が多く、地域特有の傷病について理解を深めることができた。さらに、手術室の構造や管理体制の違いにも触れ、日本の医療環境の安全性の高さを再認識した。
特に印象的であったのは、伝統医療であるアーユルヴェーダの存在である。現地では麻痺やアレルギーなどの治療に用いられており、地域に根付いた医療として一定の役割を担っていることを知った。一方で、西洋医学的治療の開始が遅れる可能性がある点も課題として感じられた。伝統医療と近代医療の共存にはバランスが必要であると実感した。また、蛭療法など、日本では見られない治療法も経験し、医療の多

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

本経験は、医学および英語学習に対する大きなモチベーションとなった。今後は医学英語の向上のため、日本語だけでなく、英語でも医学を勉強するように心がけ、より理解を深めたいと考えている。
また、どの診療科においても、疾患そのものではなく患者の生活への影響を重視した医療が行われていたことが印象的であった。この視点を今後の臨床実習や将来の医療実践においても大切にしていきたい。
さらに、本渡航で得た知識や視点を活かし、自分が医療者として何ができるのか、またどのような形で社会に貢献していきたいのかについて、今後も継続して考えていきたい。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

自分ですべて計画するのが大変ではあるが、過程も含めてとても貴重な経験になったと感じています。日本ではなかなか得られない経験を多く出来ました。少しでも迷っているならぜひ挑戦することをお勧めします。

計画全体にかかった費用（自己負担分も含めて、日本円で記載すること。）

渡航費(往復)	248,728円
海外旅行保険	8,460円
学費（教科書代や大学等プログラム授業料等）	300,500円
宿泊費	
光熱費	
食費	
その他	61,181円
合計	618,869円